# 特集

## 寄稿 地球環境問題とCSRについて

#### 第61回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょうか。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



### 世界最大規模のCSRレポート・アワード

今回は、年度末の3月発行というタイミングですので、久しぶりにCSRレポートの最新動向をお伝えしたいと思います。数年前にも本寄稿でご紹介させていただいた英国の評価機関コーポレート・レジスターが毎年実施するCRRA賞(Corporate Responsibility Reporting Award)の2016年度の各賞にノミネートされたCSRレポートをご紹介します。コーポレート・レジスターは全世界13,805企業・団体の発行するCSRレポートのウェブ上のデータベース機能を担っている機関で、過去発行分を合わせると82,949のCSRレポートへのアクセスが可能です。

ここ数年、気候変動ではパリ条約、CSRの世界的な取り組みでは国連持続可能な開発目標(SDGs)が企業にとって無視できない国際ルールになってきています。日本企業でも、率先してこれら国際ルールに取り組んでいる企業がでてきています。そして、その取り組みをCSRレポートで発表し、株主や消費者、地域社会などの多様なステークホルダーとのコミュニケーションに活用し始めています。

それでは、CRRAの各賞にノミネートされたCSR レポートについて日本企業を中心に紹介したいと思 います。 まず、ベスト・レポート賞(Best Report)です。ベスト・レポートにノミネートされた10社のCSR レポートのうち、日本企業はマツダ自動車が選ばれました。その他のノミネートされた企業はブラジルの製紙メーカーのフィビリア(Fibria Celulose)、英国のタバコ会社BAT、英国のレレックス・グループ(RELX Group)、カナダの水力発電会社ハイドロケベック、英国の小売店マークス・アンド・スペンサーなどでした。

次は、CSRレポートの新人賞(Best 1st Time Report)です。新人賞に日本企業のCSRレポートは入っていませんでした。しかし、日本でも有名な調査会社のニールセンや、イタリアの高級ブランドであるフェラガモのCSRレポートがノミネートされています。

そして、最優秀統合レポート賞(Best Integrated Report)では、日本企業の日立化学がノミネートされています。その他の主なノミネート企業は、デンマークの大手化学・薬品メーカーのノボ・ノルディスク、イタリアの大手銀行ウニクレディト、米大手食肉加工品メーカーのスミスフィールズ・フーズなどです。

最優秀カーボン情報公開レポート賞(温室効果ガスである炭素排出量の情報公開の水準)では、再び日本のマツダ自動車のCSRレポートがノミネートされています。その他の主なノミネート企業は、世界的な飲食料品ブランドのネスレ、大手教育会社のピアソンなどです。

次の部門は、創造的コミュニケーション賞です。 日本に限らず欧米やアジアでもCSRレポートはこれ まで会社案内の詳細版という位置付けで考えられて きました。そのため、いかに一般の人々に自社の CSR活動を分かりやすく容易に伝えることができる のか、ということに多くの企業が取り組んできまし た。この賞はそのような取り組みを評価する賞です。 残念ながら、日本企業のノミネートはありませんで した。この部門では、韓国企業が複数ノミネートさ れていました。韓国鉄道公社、仁川国際空港公社、 そして現代建設です。その他のノミネート企業は既 出の英BATや加八イドロ・ケベックなどです。

次は、報告書イノベーション賞です。これもコミュニケーション同様に、CSRの報告において画期的な報告方法や内容を評価される賞です。この部門でも日本企業はノミネートされていませんでした。米大手金融機関のJPモルガン、豪大手通信会社テルストラなどがノミネートされています。

関連性&マテリアリティ(重要性)賞では、再びマツダ自動車がノミネートされました。その他の主なノミネート企業はスイスの大手化学・薬品メーカーのノバルティス、インドの金融機関イエス・バンク、英BATなどです。

公明正大(オープン&誠実)賞では、日本企業の ノミネートはありませんでした。韓国の現代建設、 米大手航空宇宙輸送用機器メーカーのロッキード マーチンなどがノミネートされています。 そして、最後の9つ目の賞が外部保証を通じた信用性(クレディビリティ)賞です。日本企業のノミネートはありませんでした。現代製鉄、米ロッキードマーチン、スイスのネスレ、英BAT、加八イドロ・ケベックなどがノミネートされています。

このように、9つの賞のノミネートに、日本企業は2社入りました。そのうちの1社であるマツダ自動車は3つの賞でノミネートされているので、ぜひ、3つのうちの1つでも賞を取ってほしいと思います。

実際の投票は、コーポレート・レジスターのウェブサイトで登録手続きをしないとできませんが、ぜひ、同ウェブサイトを確認頂き、ご興味ございましたら、ぜひ投票をしてください。CRRA賞の結果は、次回以降、本寄稿においてご報告致します。

CRRAのウェブサイト:

http://www.corporateregister.com/crra/



#### 略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント:DWMインカムファンズ日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンズオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか?」(ピエトラ・リポリ著東洋経済新報社)「暴走する資本主義」「格差と民主主義」(ロバート・ライシュ著東洋経済新報社)「ジェンガ世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」(レスリー・スコット著東洋経済新報社)などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。